

宮内庁埼玉鴨場



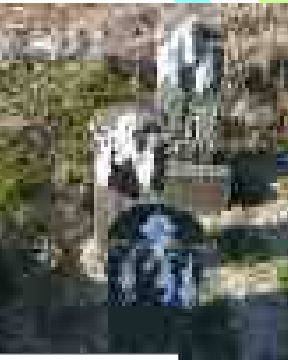
宮内庁埼玉鴨場

「此宿并大沢町共御捉飼場有元」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)とあり、幕府が使っていたものを、明治41年(1908)に宮内庁埼玉鴨場として開設した。皇室関連の行事のほか日本に駐在する外交官や賓客接遇の場としても用いられており、鳥を傷つけない伝統的鴨猟を紹介し、それを通じて日本の自然・伝統・文化・歴史を感じてもらおう絶好の機会となっている。

訓練したアヒルを使い鴨を獵者が潜む直線的な細い水路に誘導し、飛び立つ瞬間を網で捕獲する。水路で飛翔方向が限定されるため、網を振るだけで子供でも容易に捕獲が可能である。その後捕獲した鴨は国際鳥類標識調査に協力するために種類・性別などを記録し、標識(足環)をつけ放鳥される。

元々は徳川将軍家や有力大名家が行っていた伝統鴨で、明治時代以降は皇室が維持保存を行っている。

大房の薬師堂跡
宝性寺の建っているあた。鶉の森の薬師・大江りの薬師と呼ばれた。



古奥州道の道標



元荒川

元荒川
かつては荒川の主流であったが、寛永6年(1629)に伊奈忠次により熊谷市久下で荒川が締め切れられ、和田吉野川、市野川を經由し、入間川に付けかえられた為、本流からは切り離された。また、かつてはかなり蛇行した流路であったが、同時期に流路を整備されている。かつての元荒川は荒川扇状地の湧水を水源としていたが、水源が枯渇したため、現在の源流はポンプで汲み上げた地下水(人工水源)である。北越谷第五公園から大沢橋までの左岸約2kmに約400本の桜並木が整備された。

大房稻荷神社
猿田彦文字庚申塔 檜宮文字塔 猿田彦文字庚申塔 青面金剛像庚申塔 青面金剛像庚申塔 猿田彦文字庚申塔 二十一仏碑があり、古奥州道沿いにあった。「大房村の左側に猿田彦の神社、樹木繁りたる森より白鳩の飛び行を見て朝露をふるって立つや敷の鳩」(上野下野道の記)

浄光寺 大同2年(807)創建と伝えられ薬師堂にあった高さ3mに及ぶ巨大な薬師如来と12神将像、五智如来立像(大日如来、阿闍如来、宝生如来、観自在王如来-阿弥陀如来、不空成就如来)などがある。境内の梅園「古梅園」入口に高浜虚子の「寒けれどあの一むれも梅見客」の句碑がある。



16 越ヶ谷宿 ~ 粕壁宿

埼玉県越谷市
北越谷 ~ 大房

(歩行距離 1695m 20分)

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp



越谷だるま
江戸時代中期「起きあがり小法師」という縁起物に中国禅僧の祖、達磨大師を描いたのが始まりといわれ、子供の痘瘡除け・開運・厄除け・商売繁盛の縁起ものとして、長く親しまれてきた。越谷近辺で生産されるだるまは、年間50万個を数え、川崎大師・柴又帝釈天など関東一円をはじめとして、北海道から九州まで広く「越谷だるま」の名で知られています。昭和59年(1984)には張子はりこだるまとして、埼玉県から伝統的手工芸品に指定されました。



東武鉄道北越谷駅
明治32年(1899)8月27日東武鉄道開業により千住、西新井、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、久喜駅を開設。開設当時は客車、貨車の混合列車で1日7往復していた。明治41年(1908)埼玉鴨場開設にともない越ヶ谷駅には貴賓室が備えられた。大正9年(1920)越ヶ谷町に越ヶ谷駅が新設されたため『武州大沢駅』と改められたが、大沢とは大小17の池や沼のある沼沢地の意味です。昭和31年(1956)北越谷堤に桜の木が植樹される。昭和37年(1962)日比谷線北千住~人形町間開業に伴い、北越谷駅まで相互直通運転開始。昭和41年(1966)に『北越谷駅』と改められた。



香取神社
本殿は明治元年(1868)再建。奥殿は、慶応2年(1866)の建造で、四面の外壁に彫刻が施されている。彫物師は浅草山谷町の長谷川竹次良で、高砂の翁、大黒天、龍などの浮き彫り、奉納者の名が刻まれ、北側の一部には紺屋の労働作業の有様が精巧に刻まれている。当時、越ヶ谷、大沢は紺屋業が盛んでした。大沢町鎮守。本殿四面の彫刻、龍や鳥、高砂の扇、大黒天、紺屋の作業の様子は見事。

光明院
山門を入って本堂の脇に6体の地藏と地蔵の左に塩かけ地蔵がある。願をかけて塩を断ち、願いが叶えば塩を頭からあけたという。長い間かけているうちに、形がくずれてしまった。武蔵国八十八ヶ所霊場29番です。

歩道がない狭い道路が続く